

東日本大震災（名称は4月1日政府決定。それまでは当校では東北・関東大震災と呼称していました。）に対する当校の取り組みについての校長からのメッセージ。

浦和学院高等学校は今回の大震災の被災者の皆様に心からお見舞い申し上げ、お亡くなりになった多数の方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

当校は3月11日の大地震の際に、通信網が混乱を極めた中で教職員と生徒たちが一体となって、速やかに適切に行動することが出来ました。生徒の皆さんの安全を最優先させ、学校内・外の一人ひとりの安否を分担して調べ、当校生徒全員の安全性が確保されていることを確認してネット上で皆様にお知らせすることができました。また、学校建築物・設備関係などを専門業者に依頼して速やかに点検を行い、安全性と使用に問題の無いことを確認いたしました。

次いで、大震災対策本部を立ち上げ、震災に関する当校の基本的な考え方を校長のメッセージとして教職員・全校生徒に伝えました。その要点を示します。

1) 当校の「常に前向き、そこに夢と希望がある。」をより強く実践すること。

今回の被災者の皆様は想像を絶する悲しみと困難の中で、秩序ある素晴らしい行動と、多くの教訓を私たちに示して下さいました。私たちはそれを学び、マイナスになりがちな思考と行動をプラスに転化し、全て「前向きな姿勢で物事に対処し着実に一歩ずつ前進する、そこに夢と希望がある。」という当校の基本的な考え方をさらに推進することを指示しました。

2) 「浦学ファミリー」と「頑張る仲間を皆で応援」をより強く推進すること。

この二つの浦学の合言葉の大切さを、今回の災害で改めて再認識出来たと思います。大変な被害と過酷な生活条件の中で家族や仲間を思いやり、困難を共有して皆で頑張る姿、それを知った全世界の人々が応援する心、浦学の仲間意識に対する基本的な考え方の手本を今そこに見ることができます。

第83回甲子園出場の決まった当校では、早くから全校を挙げての応援を企画していました。そこへ今回の大災害、当校は被災者の皆様の心情と生徒たちの安全を考え、大規模な組織的な野球応援を自粛し、そのエネルギーを被災地への応援に振り替えることにしました。試合当日は三塁側のスタンドに「浦和学院は被災地の方々に応援しています。頑張る仲間を皆で応援 浦和学院高等学校」と大書した横幕を用意し、卒業した三年生を除く一、二年生全校生徒のサインを記入したファイアーレッドのポンチョを、ベンチ入りしなかった野球部員たちが着用して、自主参加した浦学ファミリーの皆さんと一緒に元気いっぱい応援しました。

それと同時進行で、教職員・生徒・保護者・講演会・同窓会などの浦学ファミリーが、「頑張る仲間を皆で応援」の精神で、被災地の皆様のために何が出来るかを考えての行動を起こしました。それはホームページ上のニュース&トピックスで見ることが出来ます。

3) 大震災 今、浦学にできること。

浦和学院高等学校は上記したように、常に前進する姿勢とファミリー意識をもって「頑張る仲間を皆で応援」します。そして、「今、浦学に何が出来るか。」を皆で真剣に考えましょう。考えるだけでなく行動しましょう。そしてそのためには押しつけの善意ではなく、被災地の皆さんが、「今、何を必要としているか。」を良く知ることが大切です。我々の行動はもう始まっています。その行動の先には、素晴らしい夢と希望のある明るく開けた日本があると信じています。

被災地の皆様是非頑張ってください。浦和学院高等学校は皆様とともに常に前向きで、明日を夢見て頑張ります!! そして、大きな頑張りも、小さな頑張りも、頑張っている仲間たちを皆で応援します!!!

地震発生からの経過

3月11日 14時56分 大震災発生

- ①在校生・来校者400名を適切に第一グラウンドに誘導
- ②15時 長期戦になることを予測し、食糧の確保(飲料・パンの買い出し500名分)
- ③16時 状況把握後、全員を体育館に移動
- ④保護者への連絡開始、パンと飲料配布、おかゆ・スープの提供
- ⑤交通手段確保者から帰宅開始、スクールバスを県内6方面に臨時運行
- ⑥21時 100名前後の待機者に夜食(雑炊)の提供
- ⑦23時 生徒9名、教員9名協志寮に宿泊

3月12日 宿泊者を自宅へ送迎、

事務部による施設の破損状況

専門家による施設の破損状況確認、安全を確保

3月13日 安全を確保したうえで入学説明会実施

生徒の募金活動開始を決定(生徒指導部)



3月14日・15日 臨時休校

第1回救援物資支援 「社会福祉法人 元気村」(事務部)

- ①計画停電に備え、投光機(2台)のリース決定

3月16日 新入生学力診断テスト中止

3月17日 GDR（グラウンドデザインルーム）開催 東日本大震災対策本部会議

3月18日～4月7日 生徒登校禁止を決定

甲子園学校応援自粛

①「頑張る仲間をみんなで応援」の垂れ幕を作成する

②応援ポンチョに全校生徒の名前を記名する

③野球部員のみが学校を代表して応援する



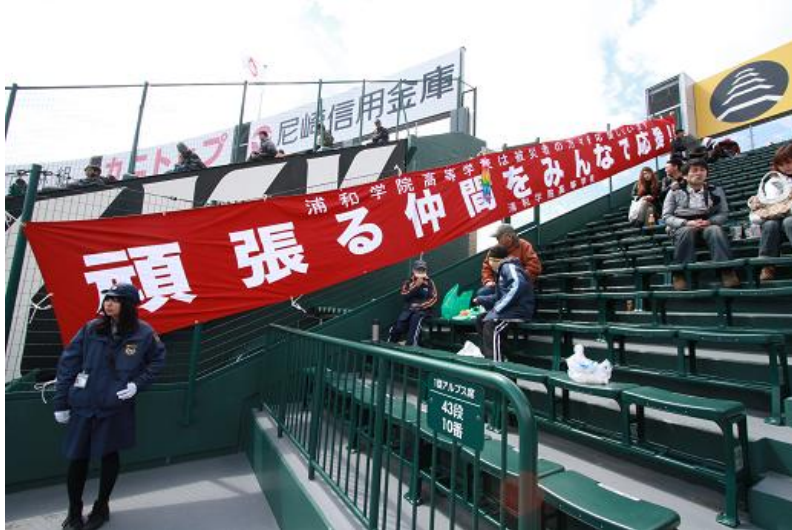
3月18日 日本高野連選抜高校野球大会 開催決定

3月19日 終業式実施

3月26日 第2回救援物資支援 「さいたま市 片柳コミュニティセンター」（事務部）
原発避難者（福島県在住の方々）に支援



3月27日 第83回選抜高校野球大会1回戦 対鹿児島実業戦
「頑張る仲間をみんなで応援」を掲げた応援スタイル



3月28日 ペットボトル協力要請



3月31日 GDR (グラウンドデザインルーム) 開催 東日本大震災対策本部会議
4月以降の行事「平常」と決定、部活動も4月1日から再開

4月1日～3日

第3回救援物資支援 「石巻市 石巻専修大学」「避難所7ヶ所」
「登米市 南方ナーシングホーム翔裕園」（事務部）

散水車（給水）を石巻専修大学に1ヶ月間貸与

※散水車が活躍している様子が4/7「日本テレビ ニュースZERO」にて流れました。



学校で購入し多数の支援物資を輸送



散水車は石巻市内で大活躍している



石巻専修大学避難所に給水している様子



石巻市内7ヶ所の避難所を訪問した



避難所で東北高校野球部を激励する本校職員



石巻市内小学校は津波と火災の大打撃を受けた

以上